

極秘

華北事件ニ關聯スル帝國對支政策ノ再檢討

昭和十年六月十日

0015

目次

一、北支ニ對スル支那當局ノ觀測	一頁
二、支那ハ華北ヲ諦メ居ルニ非スヤ	三頁
三、五月事件ト中央軍ノ華北撤退決意ノ經緯	五頁
四、支那側ハ終ニ華北ヲ如何ニ處理セントスヘキヤ	一〇頁
五、果シテ支那側ニ案ナシトセハ 我方ハ如何ニスヘキヤ	一一頁
六、支那ハ日本ノ「ボーデエスト」ヲ何ト觀ルカ	一四頁
七、昇格後ノ支那ノ對外關係	一九頁
八、日支關係ノ目標ハ矢張り攻守同盟ナリ	二一頁

0016

一、北支ニ對スル支那當局ノ觀測

塘沽停戰協定直前關東軍カ平津地方ヲモ席捲セントスルヤ疾クモ支那官民ハ華北一帶モ熱河ト共ニ日本側ノ手ニ歸スヘント諦メカケタリ筆者昭和八年五月十日前後親シク華北ニ赴キタル際會談ノ機ヲ得タル張群、何應欽果テハ胡適ニ至ル迄斯ノ印象ヲ與ヘタルハ今尙腦裏ニ明カナル處ナリ當時駐平中ナリシ英國公使「ラムプスン」、米國公使「ジョンソン」、佛國公使「ウキルデン」等亦華北ノ歸屬ヲ懸念シ始メ居タルヲ看取セリ（此等ノ詳細ハ昭和八月五月拙稿「華北見聞録」參照）

然レ共其ノ後停戰協定成立シ華北政務整理委員會組織セラレ黃郛カ之ヲ宰配スルヲ見ルヤ極メテ緩慢乍ラ通車、通關、通郵問題モ漸次

0017

0018

解決セラレズクテハ黃郛等ノ努力ニ依リ結局ハ華北ヲ喪フコト無クシテ濟マセ得ヘシトノ或ル種ノ安堵ノ色ヲ認メ得タリ但シ右見解ハ謂ハハ皮相ニ過キス即チ苟クモ處理ヲ誤ラハ管ナラサル結果ヲモ來スヘキハ亦否ムヘカラサルノ形勢ニ在リ仍テ黃郛ハ勿論股同、商震等少クモ實體ヲ見逃ササラムトスル輩ハ常ニ深ク之ヲ憂ヘ如何ニモシテ停戰協定ヲ去リ假令之ニ代ルヘキ政治協定ノ締結已ムヲ得ストスルモ先ツ斯ノ軍事的夥伴ヲ脱セント試ミ特ニ股同ノ如キハ機會アル毎ニ之ヲ高調セリ而シテ北方政務整理委員會若ハ北平軍事分會ニ廣汎ナル全權ヲ賦與シテ大局ノ處理ヲ誤ラカラシメンコトヲ主張セルモ此ノ故ニ外ナラス

然レ共凡ソ支那要路ノ脱シ得サル誤解ハ大局ノ把握ヲ忘ルルノ點ナ

リ部分的ニハ其ノ短所ト缺陷トヲ充分ニ知悉シツツモ翻然之ヲ改ムルノ英斷ニ出テス往昔時ヲ遷シ遂ニ延引ナラサル破綻ニ立到ルコト罕ナラス干學忠ヲ筆頭トシ萬福麟、王樹常ヲ含ム舊東北軍ヲ而カモ學良ノ暗黙ノ指揮ニ任シツツ華北ニノサハラセ置クカ如キハ自殺ニ齊シク百千ノ有能ナル黃郛等ヲ配スルモ此ノ儘ニテハ華北ノ運命ハ熟柿ノ落チルカ如ク朽チ行クニ相違ナキハ百モ承知ノ上ニテ而カモ一向之ニ對應スルノ措置ヲ執ラサルカ如キ勿論支那ノ國民性ニ職由スル處トハ云ヘ餘リニモ懲リ性ナキ仕業ト謂ハサルヘカラス

0019

二、支那ハ華北ヲ諦メ居ルニ非スヤ

三

前項所述ノ如キタラシノ無キ遣リ口ハ實ハ支那人カ普通ニ持つテ生

0020

マレタル性質ノ爲ニ非スシテ焉ンソ知ラン實ハ支那カ華北ヲ尙モ實ノ處諦メ居ル結果ニ外ナラスト觀ラルル節ナキニアラス現ニ五月初來寧汪兆銘等ニ對シ對日政策ヲ獻言セル廣東嶺南大學學長鐘榮光カ過日筆者ヲ來訪シテ語ル所若シ假ニ眞ナリトセハ汪兆銘モ明ニ業ニ華北ヲ諦メ居レリト謂フカ如キ又北支事件直前故宮、文華殿、武英殿等ナル古物ヲ殆ント全部南方ニ遷シタルハ之カ證左ナリト信シ得ヘキカ如シ又黃郛自身モ曾テ（一月末頃南京ニ於テ）多少冗談ヲ交ヘテ筆者ニ對シ塘沽協定カ即チ華北ハ日支間ニ於テ極メテ特異ナル地域ナルヲ認メタル證左トモ言ヒ得ヘシト歎息セルコトアルカ如キ然リ

四

三、五月事件ト中央軍ノ華北撤退決意ノ経緯

五月初頭ノ天津日本租界内支那新聞關係者殺害事件並ニ孫永勤匪掃蕩事件等ヲ假ニ五月事件ト名付ケンカ我軍部出先官憲カ北平ニ於テ五月二十九日何應欽ニ申入レタル瞬間ニ於テ支那側ハ全クノ處「是ハ仕舞ツタレ」ノ感無キヲ得サリシニ相違ナシ蓋シ干學忠カ事毎ニ日本軍部側トノ間ニ面白カラサル事態ヲ醸シ何レハ何トカ片付クルノ要アルハ夙ニ感得シ居タル事乍ラ一ハ蔣介石ノ二重外交的對日策ト二ハ張學良カ穩密ノ間ニ干ヲ使喚シ日本軍ニ對シ執拗ニ反抗シ居タルハ明カナルモ今之ヲ阻止センニハ其ノ波及スル政局決シテ單純ナラサルヲ懼ルルカ故ニ實ハ何トモ手ヲ付ケ得サリシ隙ニ宛カモ乘セラレタルノ感ナキニアラサレハナリ又事實日本ハ今後コソ問題ノ根

五

0021

六

幹タル蔣介石ノ煮エ切ラサル對日政策ノ清算ニ出發シ換言セハ塘沽協定ノ總勘定（六月一日唐<sup>晴</sup>カ唐有壬ニ對シ寄セタル急電内容）ニ出發セルヲ百モ承知ナルカ故ニ事茲ニ至リテハ仲々容易ナラサル事態ヲ惹起スルヤモ計ラレサルヲ疾クモ危懼シタリ現ニ第二師、第二十五師<sup>等</sup>ノ駐北中央軍ヲモ撤退方希望セルニ對シ當初ハ度膽ヲ抜カレタル面持ニテ六月一、二、三ノ三日ニ亘リ支那南京側要路（外交次長唐有壬及内政次長許卓然ノ如キ）ハ筆者ニ對シ希望トハ云ヘ中央軍ハ停戰區域ト<sup>モ</sup>何等關係ナキ地方ニ駐屯シ居リ專ラ支那側獨立運動即チ安福派等ノ反動派カ山西派其ノ他ノ支那政治家ト結託シテ滿洲國若ハ日本軍部トハ全然無關係ニ中央ヨリ分離セントスルノ形勢（例ヘハ干學忠カ韓復榘等ト脈絡ヲ通セントスルカ如キ又

0022

吳佩孚等又ハ同系舊政客カ劃策シツツアルカ如キヲ指ス。アルヲ中央軍ヲ以テ纒カニ抑ヘ居ル實狀ニモアリ又理論ヨリスルモ支那領土内ニ中央軍ノ存在スルハ如何ナル場合ニ於テモ自由ニシテ何等外部ヨリ誹議セラルヘキ筋合ニアラスト表面一應尤モナル而カモ彼等トシテハ悲痛ナル苦衷ヲ翹ヘ何ハ冤モアレ此ノ事丈ケハ我慢シ吳レマシキヤト殆ント歎願スル處アリシカ是トテ日ヲ經ルニ從ヒ且ツ實際ヲ認識スルニツレテ已ムヲ得サルヲ覺悟シ始メタルモノノ如クナルモ六月七日唐有壬ハ筆者ヲ來訪シ最後ノ努力ヲ致スヘク更ニ歎願ヲ重ネタルニ對シ筆者ハ

(一) 今ハ主權論ナントヲ問題トスル秋ニアラス

(二) 中央軍ヲ自發的ニ移動セシメサルニ於テハ更ニ第二ノ停戰協定

七

0024

ヲ必要トスルニ至ルヘキ處十二分ニアリ

(三) 今次空氣ヲ醸シタル根本的ノ事態ハ改メサルヘカラス謂ハハ中

央軍モ華北ノ癆タリシカ故ニ差向キ癆ハ之ヲ除キ傷痕ハ<sup>トク</sup>淨ニ保ツコト肝心ナリ即チ保定迄移動セシムト云フカ如キ間ニ

合セハ駄目ナリ

トノ趣旨ヲ答ヘタルニ唐次長ハ

(一) 國際聯盟ニ依ルコトヲ罷メテ專ラ日本外務省ニ頼ラムトシ居タ

ルモ今斯ノ形勢トナリタルハ悲痛ノ極ミニテ支那外交當局ハ何

トモ其ノ處置ニ窮ス

(二) 中央軍ノ存在カ邪魔ナリトハ何トシテモ承服シ難キニ付他ノ部

隊トノ更迭ヲ認メ吳レヌヤ

八

0023

トテ縷々懇願歎願ヲ續ケタルモ筆者ハ事態ハ刻々緊張ヲ加ヘ何時何  
 事ノ勃發スヘキヤ豫測シ難キ際ニテ又外務官憲ニ頼ルトハ言ヒ條支  
 那側ハ筆者ノ口癖トスル廣田外相ニ武器ヲ與ヘヨノ聲ニ一向耳ヲ藉  
 ササルニ非スヤ兎モ角理論ヤ體裁ハ拔キニシテ實情ヲ土臺トセル解  
 決ノ途ヲ指示スル譯ナルカ此ノ際支那側ハ政治的考慮ヨリ大局ニ目  
 ヲ注キ更ニ惡化セシメサルヲ期シ萬事英斷ニ依ルヘキナリ今ニ於テ  
 尙遲疑スルニ於テハ拾收スヘカラサルニ至ルヘキニ付兎モ角汪院長  
 (七日朝蘇州ニ赴キ兩三日中ニ歸寧スヘキ筈ナリキ)ト電報等ニテ  
 聯絡シ何應欽ニ對シ至急訓電スヘキコトヲ徼滬シ置キタルニ唐次長  
 ハ同七日午後五時ノ列車ニテ赴滬上海ニテ汪院長ト面晤スヘシト述  
 へ居タルモ右ノ會談ニヨリ斷然事實ヲ變更シ同七日夕赴滬セル汪ニ

電報シテ早速八日朝歸寧セシメ早速最高幹部ヲモ加ヘテ筆者ト唐次  
 長トノ會談ヲ中心トシテ鳩首凝議シ理論上ハ大イニ疑義ヲアルモ此ノ  
 際ハ英斷ニ出ツルノ外ナシトノコトニ一決シ何應欽モ中央軍ノ南下  
 方ヲ訓電セルニ八日午後七時何ヨリ只今直チニ自發的ニ移動ヲ開始  
 セリト通電越シタリ(八日午後七時半唐ヨリ筆者ヘノ電話)

四、支那側ハ終ニ華北ヲ如何ニ處理セントスヘキヤ

五月二十九日迄數回重慶ニ於テ蒋介石ト打合セテ遂ケテ六月七日着  
 寧セル在東京支那大使館參事官丁君ハ汪、唐等ニ對シ日本側ノ華北  
 ニ對スル要求ニ關シ蒋介石ハ當惑シ其ノ處置ノ思案ニ窮シ居レリト  
 ノコトナリシカ(唐有壬ノ七日ノ述話特ニ蔣ハ四川共禍ノ管ナラサ

ルニ當惑シ日本軍部ハ斯ノ危急ノ所ヲ狙フルナランナトト愚痴ツキ居タリトノ話モアリタリ）流石ノ蔣介石ニシテ既ニ然リ其ノ他凡百ノ支那要路ハ餘程狼狽シ居ルハ事實ナリ自然今ノ處支那側ノ何人ニモ華北ヲ如何ニ處理スヘキヤニ付テハ何ノ具體案モナカルヘシ斯ナ時コソ普通ナラハ國際聯盟ナリ他ノ外國ニ泣キ付ク手モアル譯ナルモ今ヤ此等ノ施スヘキ術モ無ク先ツ先ツ絶對絶命唯此ノ上ノ醜態ヲ取締ハント努ムルノ外ナキモノノ如シ

五、果シテ支那側ニ案ナシトセハ我方ハ如何ニスヘキヤ  
元來支那側ニ案ノ有無ヲ問ハス我方ニ於テハ疾クニ對策ヲ練リ置クノ要アル次第ナリ

一一

先ツ今次我方ノ申入レハ之ヲ以テ些々タル支那人新聞關係者殺害問題將又孫匪問題等ヲ解決セリトスルニ過キスト解スヘキニアラス  
(イ) 華北ニ於ケル不徹底ナル二重外交ヲ清算シテ支那側ヲシテ日本トノ間ニ眞ニ徹底的ナル親善關係ヲ設定スルニ非サレハ華北自體ノ安全亦危ウキヲ自覺セシメ以テ支那全般ノ排日氣運ヲ一掃セシメムトスルコト其ノ一ナリ  
(ロ) 排日抗滿ヲ阻止スル當然ノ歸結トシテ支那側ヲシテ漸次滿洲國ヲ承認スルノ賢明ナルヲ悟ラシメムトスルコト其ノ二ナリ  
(ハ) 更ニ蔣ヲシテ眞ニ日本トノ親善ヲ策スルノ必要ヲ悟ラシメ絶對的ニ其ノ二重外交ヲ去リ擬裝親日ヲ棄テ終リ迄東亞ノ大局ヨリ日本ト結フコトノ得策ナルヲ覺ラシメ不徹底ナル欺濫外交ヲ

一二

棄テテ誠意ヲ披歴セシメル爲先ツ蔣ヲシテ直接出馬セシメ從來ノ如キ汪、黃、唐等ノ中間的緩衝地帯ヲ去ラシムルコト其ノ三ナリ

(ニ) 國際聯盟ハ言フ迄モナク歐米諸國ト日本トヲ同列ニ置クコトスラ甚タシク時代錯誤ナルニ殊ニ日本ヲ先ツ忽ニセムトスルカ如キハ以テノ外ノ事象タルヲ悟ラシメ漸次日本ト先ツ結フノ外ナキヲ決意セシメムトスルコト其ノ四ナリ

(ホ) 決定的ニ日支親善又ハ提携ヲ作爲セムニハ尙幾多ノ過程ヲ要スヘキモ少クトモ先ツ日本ヲ欺<sup>瞞</sup>シ去ルカ如キコトハ絕對ニ有リ得ヘカラサルヲ悟ラシムルコト其ノ五ナリ

以上ノ諸目的ヲ達成セムニハ尙藉スニ時日ヲ以テスルヲ要スルモ極

一三

0029

メテ執拗ニ前述ノ目的ヲ押スコトヲ要ス畢竟スルニ支那問題ハ當分ノ間押シノ一手ナリトハ從來筆者ノ唱道シ來タリタル處ナルカ今次ノ事件ハ謂ハハ之ヲ如實ニ示シ且ツ今後ノ方向ヲ示スモノト云ハサルヘカラス

六、支那ハ日本ノ「ボーヂエスト」ヲ何ト觀ルカ

支那ハ無線聯絡協定、南京漢口賠償金支拂、幾多ノ對日債務整理等過去一年ノ間相當先ツ先ツ誠意アリトモ觀ルヘキ工作ヲ爲シ客年末又ハ本年初頭ヨリ之ニ對スル日本側ノ「ボーヂエスト」ヲ要請スルノ態度ニ出テ居ル次第ニ付テハ客臘拙稿「支那ノ對日態度再吟味」ニ於テ詳細説明セル所ナルカ之ト同時ニ其ノ中ニ於テ右「ボーヂエ

一四

0030



スト」ハ日本側ヨリ示スコト未タ其ノ時機ニアラスト論述シ例ヘハ  
大使館昇格モ尙早ナリト陳ヘ只管何等ノ損失ヲ伴ハサル新ラシキ控  
取政策ニ出ツヘキヲ主張シ即チ先ツ政策ノ變更ハ其ノ見込ナキガ故  
ニ役者ト看板トヲ替フルコトニ依リ當分ノ間支那側對策ノ推移ヲ見  
守ルヘキヲ主張セルカ此ノ見地ヨリシテ大使館昇格ハ如何ナル意義  
ヲ有スヘキヤ大イニ検討ノ餘地アルヘシト雖モ一旦決定シ且ツ筆者  
カ明カニ政府ノ訓令ヲ遵奉シテ事實上解決シタル謂ハハ過去ノ問題  
ニ付テ見解ヲ述フルハ其ノ所ニアラサルカ故ニ之ヲ茲ニ省クトシテ  
唯同問題カ支那側如何ニ映シツツアリヤハ互ニ忽緒ニ附スヘカラ  
サルナリ

一五 五月二十日某有力支那人ハ筆者ニ對シ厚顔ニモ支那ハ日本ノ大使館

0031

昇格措置ニ大イニ猜疑セサルヲ得ス瓜開スル所ニ依レハ日本ハ更ニ  
南米的ナ又ハ其ノ他ノ現ニ大使格ナル人物ヲ以テ有吉公使ノ後任タ  
ラシムヘキ肚ナルカ故ニ已ムヲ得ス昇格シタルナリトノ消息モアル  
モ今姑ク之ヲ措クトスルモ昇格ニハ何等カ他ニ不能ナル理由ノアリ  
テ存スルヲ想ハサルヘカラスト五月八日筆者カ昇格ノ決定ヲ通告シ  
タル際汪兆銘、唐有壬等ハ字面通り狂喜シタル次第ヲモ目撃シ居リ  
勿論右ノ如キ猜疑ノ觀測ハ一部人士ノ意見ナルヘシト雖モ決シテ一  
小部分ノ見解ニハ止マラサルヲ觀ルヘシ蓋シ南京ニ於ケル朝報ハ勿  
論上海ノ新聞報等相當有力ナル新聞ニ極メテ率直ニ同様ノ疑惑ヲ吐  
露シ一般論調モ先ツ先ツ大體ニ於テ異曲同巧ノ秘調ヲ藏シ居リタル  
ノ事實ハ之ヲ否ムヘカラサレハナリ

0032

一六

又一方日本カ率先昇格シ且ツ英、米、獨、佛等ノ諸國ヲモ誘ヒタル  
友誼的措置ニ對シ汪、唐等ハ衷心表謝シ居タルハ事實ナルモ英米カ  
日本ニ先鞭ヲ付ケラレタルヲ相當遺憾トシ切メテ發表丈ケニテモ同  
時ニセントシテ英ハ五月十七日朝ニ至リ米ハ同日午後二時ニ至リ辛  
ウシテ公使館ノ相互昇格ノコトヲ外交部ニ通知スルト同時ニ日支雙  
方カ發表スルコトトナリ居タル同日午後五時ニ英米トノ支那ノ相互  
昇格（大使ノ人選ハ勿論間ニ合ハス）ヲ發表方強硬ニ要求シ支那モ  
支那ニテ之ヲ應諾シタル事實ハ茲ニ大イニ吟味スルノ要アリ筆者ヨ  
リ行政院モ中政會議モ通過スル間ナキニ支那カ發表ヲ肯スルハ如何  
ナモノナリヤト一本入レタルニ周章シテ外交部ヨリ非公式ニ「外交  
界消息」トシテ發表スル次第ナル旨並ニ事實上ハ日本ト英米トノ間

一七

0033

ニ差等ヲ付クル爲支那ハ日支ノ分ヲ午後一時ニ便宜「リリース」シ  
同日ノ夕刊ニ間ニ合ハシメ英米ノ分ハ同日午後五時ニ「リリース」  
シテ翌十八日ノ朝刊ニ初メテ掲載セシムル様手加減スルコトトナリ  
事實十八日朝刊カ英米ノ分ヲ報道スルニ當リテハ「英米亦日本ノ後  
塵ヲ拜スル歎」等ノ皮肉ナル標題ヲ掲ケタルモアリシカ實ハ支那側  
一般ノ觀測トシテハ英米カ日本ニ先鞭ヲ付ケラレタル形式ヲ避ケ出  
來得ル限り支那ニ少クトモ日本ト同様ノ恩ヲ售ラムトシテ同時發表  
ヲ主張シタル小穢ナサハ寧ロ「トラヂ、コメデー」ナリト評シタル  
者（「ロイテル」主筆趙君）サヘアリシカ他面ニ於テ此ノ種ノ見解  
ハ即チ支那人一流ノ依頼心ヲ多分ニ唆ルモノト言ハサルヘカラス即  
チ英米諸國ハ常ニ絶ヘサル好意ヲ有シ居ルモ日本ノ無理ナル政策ノ

一八

0034

爲之カ表示ヲ阻マレ居レリトノ觀ヲ今次ノ事實ニ依リ支那カ如實ニ  
觀取シタルモノトシテ北叟笑ミタル者亦鮮カラサルハ忘ルヘカラス  
即チ日本ノ如何ナル「ボーヂエスト」モ先ツ之ヲ與フル前ニ於テ三  
省ヲ加フルノ要アルヲ想ハシム

#### 七、昇格後ノ支那ノ對外關係

昇格シタリトテ我方ノ對支政策ニ何等ノ變化ハ無キ譯ナルモ聯盟脫  
退ヲ機抽トシテ日本ハ支那ニ對シ他國トハ自カラ異ナリタル一種ノ  
特殊關係ヲ有シ先ツ單獨ニ謂ハハ裏門ヨリ支那ト話合ヲ進メ居タル  
譯ナルカ昇格以來事實上列國ハ共同ノ線ニ列シタリトモ見ラレ之ヲ  
簡言センカ支那ノ表大門ハ各國ニ對シ平等ニ開カレタルヤノ觀アリ

一九

0035

從テ日本モ支那トノ談判ニ於テハ他ノ列國ト同列ニ表玄關ヨリ出入  
シ場合ニ依リテハ共同ノ話合ニ參加スルヲ例トスルノ新形勢展開セ  
ラレタリトモ謂ヒ得ヘキカ故ニ餘程意ヲ用ヒサレハ例ヘハ治外法權  
、内河航行權、水先案内問題等所謂支那ノ「エマインシベーション」  
ノ問題ニ付列國ニ引摺ラルルノ虞アルヘク假ニ表面ハ今回ノ昇格問  
題ノ如ク日本カ率先シテ他國ヲ「リード」セルカ如キ形式トハナル  
ニモセヨ實質的ニハ前述ノ所謂「トラヂ、コメデー」式ニ他國ヨリ  
促進セラルルノ危險ハ充分之ヲ要心セサルヘカラス要スルニ今後ノ  
對支關係ハ仲々生優シキモノニハアラサルヘシ

0036

二〇

八、日支關係ノ目標ハ矢張り攻守同盟ナリ

支那ヲ知ル者日本ニ若クハナシ

先年ノ英公使「ジョルダン」カアレ程ノ支那通スラ且曾テ類例ナキ程支那ニ喰入り居リ而カモ袁世凱ニ登極ヲ薦メタルノ愚ハ東洋殊ニ支那ヲ知ラサルヨリ生スル事象タリ又徐世昌カ曾テ未成年ノ幼傳儀ヲ擁立シテ自分ハ其ノ後見タラントセルモ同シク東洋道德ヲ辨ヘス私利私慾ニ自ラ眩了セルカ爲ナリ是レ支那人ト雖モ支那ヲ識ラサルノ例ナリ王揖唐カアノ見控ラシキ老體ヲ引摺リ引摺リ日本軍部ナントニ今頃ニナツテモオ百度ヲ踏ミオ鉢ノ廻リ來ル日ヲ空頼ミシ居ルカ如キ又年増「ヒステリー」ノ如ク愚ニモツカサル反中央抗日ナントノ青臭キ議論ヲ明ケテモ暮レテモ繰返シ徒ラニ血壓ヲ高カラシメ

一一

0038

居ル胡漢民モ愈々外遊セントシ秋風落日ノ觀アルカ如キ支那人ヲシテ支那ヲ解セサル輩ノ何ト多キカハ吾人ヲ驚カシムルモノアリ宋子文ト云ヒ孔祥熙ト云ヒ抑々蔣介石自身スラ支那ヲ解セス盲目滅法ニ揖ヲ執リ居ルヤニ見ユ

侵略ハ軍人ノ商賣タルハ何レノ時代何レノ國ニ於テモ常ニ眞ナラスヤ斯ク支那自體ヲ辨ヘス一カラ十迄歐米ナントヲ模倣シテ糊塗セントスル支那ハ何レノ國ニモ何レノ國ノ軍人ニモ極メテ好都合ナル侵略ノ機會ヲ白晝提供シ居ルモノト謂ハサルヘカラス日本ハ支那ヲ他ノ國ノ侵略ヨリ救ハンカ爲支那ノ眼ニハ侵略ト見ユルコトヲヤリ居ルヤモ知レサルナリ然レトモ假ニ右カ事事トスルモ侵略ナント爲サントセルコトモナク又將來モ之レ有ルヘカラス財力ハ勿論血肉ヲモ

一一

0037